

◎組合訪問記 「日本A Eパワーシステムズ労働組合 千葉支部」

# 地域とのつながりを大切に、 組合員が納得できる

## 『自分たちの組合』づくりを

**Q1** 日本A Eパワーシステムズ労働組合 千葉支部の成り立ちについて？

日本A Eパワーシステムズ労働組合は国分支部（茨城県日立市）、千葉支部（千葉県市原市）、沼津支部（静岡県沼津市）の3支部（本部の所在は国分支部）からなり、本部役員は3支部の執行委員長、書記長（副委員長）が兼任する形の6名で構成されております。

組合事務所



日本A Eパワーシステムズ労働組合千葉支部は、昭和37年6月に富士電機労働組合川崎支部から独立した富士電機労働組合千葉支部としてこの市原で40年の歴史を刻んだ後、2001年7月1日に富士電機&日立製作所&明電舎の変電・配電部門の合併会社「株」日本A Eパワーシステムズ」設立を契機に2002年9月30日には富士電機労働組合千葉支部解散大会、10月1日には日本A E

パワーシステムズ労働組合の本部設立大会、10月10日に千葉支部設立大会を行い、組合員424名が転籍することにより誕生しました。

会社設立時には、労働条件はバラバラで、3つの労働条件の中2003年春闘を闘いましたが、年間費やし、数多くの労使協議を行った結果、労働条件の統一を達成することができました。

制度統一後は、組合員からの問合せも多く忙しかった記憶も残っております。労働条件が変わることによって、組合員一人ひとりの生活環境が変わることを思い知った年でもありました。

また、2006年8月の第4回 本部定期大会では組合制度の統一を行い、それまで出身労組によって異なる金額であった組合費を統一することができたことにより、支部籍の考え方も出身会社から勤務地へ変更し、現在では、千葉支部組合員は270名程度となっております。

設立時の支部体制は、役員4名（執行委員長、書記長、執行委員2名）と職員（書記）2名でしたが、今では、組合制度の統一も図られたことから役員3名（執行委員長、書記長、執行委員）と職員（書



書記長（兼 中央執行委員）  
**佐々木 健**  
ささき たけし



●日本A Eパワーシステムズ労働組合  
千葉支部  
執行委員長（兼 中央副執行委員長）  
**小山 勉**  
こやま つとむ

記 1名で支部を切り盛りしています。

**Q2** 組合の伝統の中で大切にしていることは？

千葉地区の伝統で大切にしていることは「地域との繋がり」です。この市原には連合以外に産別を越えた労働団体である「市原民間労働組合連絡会議」があり、電機連合、全電線、化学総連に加盟している労組が加盟しております。主な活動としては地域ボランティアや産別を越えた情報交換ですが、同じ地域に働く仲間の連携により、従業員・組合員が生活する地域の環境改善に取り組んでいることです。

もう一点は、日立グループの一員となったと同時にできた富士電機&日立製作所&明電舎の3つの文化が交わった新しい伝統です。私も含め、当労組の組合員は日本A Eパワーシステムズ労働組合の新しい伝統を築き上げていく一員であり、そ

# 日本AEパワーシステムズ労働組合 千葉支部



ボウリング大会

の伝統が10年、20年先に語り継がれ大切にされていくことを信じ、日々頑張っております。

## Q3 千葉支部の主な組合活動の内容と特徴点について?

基本的には上部団体である電機連合ならびに日立グループ連合の方針に沿って組合活動を進めておりますが、3つの労働組合が1つになった組合の為、それぞれの良い文化を共有化し、より良い活動を日々模索する中で、労使協議のあり方や組織運営のあり方を前向きに改善しています。労使協議では、支部役員でありながら本部役員も兼ねていることから、事業所のことのみならず会社全体のこと視野に入れ協議を進める難しさがあります。例えば、千葉事業所との協議でも本部役員としての意見と捉えられてしまうので慎重に意見を述べなければなりません。組織運営においても同様のことが言えます。支部役員の立場で職場オルグをしても本部役員としての見解と判断されてしまう為、言葉を濁す場面も多々あります。しかしながら職場とのコミュニケーションを図るため、職場代表者(評議員)と連携をとり、組合員との意思疎通に励んでいます。

大きな特徴として、富士電機グループ連合千葉地区支部と同居し、共同の行事や合同の会議を開催していることで、労働会館(組合事務所)も共有しており、業務分担している取り組みもあります。

特に事業所の安全衛生に関わる部分については、情報を共有化し、日々無災害

に取り組んでおります。

## 組合の主催する行事として

では、富士電機グループ連合千葉地区支部との合同行事としてボウリング大会、ゴルフ大会、芋ほり大会を

毎年開催しており、その他に3支部合同の行事としてバスハイク(3地区の組合員の交流を図る行事を開催しています。



芋ほり体験

## Q4 その中でも最近特に重点を置いている活動について?

最近特に重点を置いている活動と言えば、時間外労働の縮減と可処分所得の向上です。時間外労働の縮減では、毎週休日出勤協議をするようにしています。その協議の中で組合員の時間外労働の実態を把握し、会社に意見・要望をしております。可処分所得の向上では、共済活動として全労済団体生命共済の一律加入、電機連合で取り組んでいる「けんこう共済」の加入促進を勧め、保険の見直しも随時行っております。

また、近年増加している定年退職者の対応としてセカンドライフセミナーも実施しております。

## Q5 千葉支部としての現在の課題とそれへの挑戦について?

組合員の皆さんに、組合の必要性、存在意義を理解して頂き、頼られる組合になることです。

その為には、組織の機能を最大限に活かし、職

場で起きている様々な課題を吸い上げる仕組みを作る必要があり、その核になる機関要員を育てていくことだと考えております。

## Q6 組合活動を進めるに当たってのモットー、組合員の役割についての皆さんの考えなどについて?

【小山執行委員長】 組合の役割は、組合員の皆さんが満足ではなく納得する会社生活と家庭生活を作り上げることです。

ある時には組合員を叱り、ある時には組合員の考えに耳を傾け、選挙で選ばれたことを自覚し組合員の盾となる。また、上部団体の活動に参画する中で組合員が企業人として世の中に役立つための教育や情報提供をする。それが組合活動だと思っております。

【佐々木書記長】 労働組合の果たすべき役割は、チェック機能にほかならないと考えます。政治、経済、経営、職場など、個々の組合員を取り巻く環境に対し、経営の健全化や賃金水準改善、相互扶助、人間形成などを成し得る為にも、正確な情報を収集し、それを元的に確にチェックできるかが鍵を握っております。

大切なものの存在価値は、時としてなくなってしまうのが付かされるものです。組合員の皆さんが「労働組合」という組織を身近に感じ、一人一人の力が集体であること、そして、一人一人の力が大きな支えとなつて存在する組織であることを感じ得る「自分達の組合」として存在価値を示せるよう、執行部の自分とそれを冷静に外から見ている自分の双方を常に感じながら、組合員の皆さんの代表の一人であることを誇りを持って、今後も自己研鑽に努め活動を進めて参りたいと思っております。

(文責・編集 金属労協組織総務局)